

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

全問記述式(設問記述・記号選択)

分量・難易(前年比較)

分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加

難易(易化・やや易化)・変化なし・やや難化・難化

大問3題・小問50問(記述24・選択26)で、昨年度と比べて小問11問(記述4・選択7)減少した。

出題の特徴や昨年との変更点

時代では、中世が4割程度で最も多く、ついで近世が3割程度、戦後が2割半ばで、近代は小問2問と少なかった。原始・古代からの出題はなかった。

分野では、外交が4割程度で最も多く、ついで社会経済が3割程度、文化が2割程度で、政治は小問4問と少なかった。

その他トピックス

本学では珍しく、戦後で大問1題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	記述 (設問・空欄 補充) 選択 (空欄4択・ 用語4択・ 文章4択・ 組合せ4択)	中世 外交	中世の外交 (1)倭寇と日明貿易、(2)日朝貿易、(3)琉球の動向と貿易、(4)蝦夷地の動向と北方交易。 本学定番の中世外交史の問題。新安沈船に東福寺以外で関わっていた神社を問うb「菅崎宮」、三浦以外に倭館がおかれた場所を問うカ「漢城」は、一部の教科書のコラムや脚注にしか記載されておらず、詳細で難しい。日明・日朝貿易の輸出入品を問うe・f・ウ・オの出来で差がついただろう。	やや易
[II]	記述 (設問・空欄 補充) 選択 (用語4択・ 空欄4択)	近世 文化	江戸時代の町人文化 (林屋辰三郎『町衆—京都における「市民」形成史』からの引用) 【設問e】「京焼」・【設問h】「友禅染」はやや難しい。 【設問n】『義経千本桜』もやや難しいが、他の近松門左衛門の作品が押さえられていれば対応可能である。全般的に基本事項が多く、本学頻出の近世文化史への対策が十分だったか否かで得点差がついただろう。	やや易
[III]	記述 (設問・空欄 補充) 選択 (用語4択・ 空欄4択・ 文章4択)	戦後 社会経済	戦後の経済 (1)戦後改革と戦後の経済再建、(2)高度経済成長と社会状況。 【設問コ】「日本労働組合総連合会」・【設問ス】「新産業都市(建設促進法)」は詳細で難しい。戦後史対策を丹念に行っていた受験生ならば対応可能だったはずである。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ①教科書中心の学習で高得点が可能である。全時代・全分野を丁寧に学習すること。
- ②本学ではテーマ史の出題が多く、また同じテーマが繰り返し出題される。時代ごとにテーマ整理を行いつつ、過去の問題を研究して、本学頻出のテーマ・用語についての知識・理解を深めておくこと。
- ③記述式の問題では難しい漢字を含む用語も出題されるので、歴史名辞は必ず書いて覚えること。
- ④年代配列や時期・年代を特定する問題が出される。年表を利用して、時代や年代を常に意識しつつ学習を進めること。
- ⑤史料問題が出題されることがあるので、市販の史料集を用いて史料に慣れ親しんでおくこと。その際、史料中のキーワード・キーフレーズに着目しながら内容を理解する姿勢で学習を進めたい。
- ⑥地名や場所を問う問題や図版を利用した問題も出題されるので、教科書掲載の図表や写真にも注意を払うこと。